

谷友雄・元兼正浩編著, 『こうすれば学力は伸びる』, ぎょうせい, 2006年, 全238頁

王, 妮
九州大学人間環境学府修士課程

<https://doi.org/10.15017/15661>

出版情報 : 教育経営学研究紀要. 10, pp.105-105, 2007-05-31. The Laboratory of Educational Administration, Educational Law, Graduate School of Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

谷 友雄・元兼 正浩 編著

『こうすれば学力は伸びる』（ぎょうせい、2006年、全238頁）

王 妮

本書は学力低下、学力の二極化など、学力に関する論争がかまびすしい今日の社会状況に応じて、学力向上の取り組みを日頃行っている現場から出された実践報告と提案である。子どもの学力は学級という組織の中で自学自習の能力を身に付けた時に形成されるという視点から、そのような学級経営の方法について言及し、教師個人々の授業力を高めるための様々な研修会の具体的なあり方を紹介している。また、分かる授業づくりにより、生徒の自己存在感を実感させる生徒指導を展開したという実践報告など、現場ならではの子どもたちの学力向上に関するアイデアが満載されている。

第1章は、「学力を伸ばすための学校力の確立」を題目とし、基礎学力の充実を企図する学校経営、学校力を高める組織文化の形成、教員の資質・能力の向上を図る教員研修をどのように行うのか、また、授業研究を中心とした学力向上の取り組み、子どもの学力を保障する教師の指導力向上の取り組み、学力を伸ばす小学校教科指導の要点、学力を伸ばす中学校授業改善の要点はどうなっているのか、そして、生徒指導の視点を取り入れたわかる授業づくりをどうように改善するのかについて論じている。

第2章は、「学力向上を図る学年・学級経営」を題目とし、経営的発想に基づく学力づくりのあり方、学年経営の視点から学年経営の要としての学年主任のリーダーシップ像、学年研修の充実による学力づくりの実際及び学級経営を基盤とした学力づくりの実際について明らかにしている。

第3章は、「学力を伸ばすための教育委員会の役割」を題目とし、福岡県内の宇美町と大野城市の教育委員会を例として挙げている。その中で教育委員会の学校教育における目標、施策内容及び学力向上プランへの支援構想などについて詳しく紹介している。

第4章は、「学力を伸ばす家庭の役割」を題目とし、家庭教育、親の姿は子どもの学力向上に重要かつ欠かせない役割を果たすべきであるという視点から、学校を支援する保護者の働きかけ、学力を伸ばす家庭教育のあり方、学力が伸びる家庭での習慣形成・家庭生活などの面をふくめて論じている。

第5章は、「学力向上に関する保護者への啓発」を題目とし、まず、習熟度別指導導入の経緯、習熟度別指導のねらい、そして習熟度別指導の今後の課題などについて論じている。また、学校と家庭との連携の必要性及び今後の学校、家庭と地域などの連携による学力向上の基盤づくりについて指摘している。

本書は大学研究者、校長、行政関係者、PTA関係者など様々な立場や役割を持つ執筆者がそれぞれの視点から論じたものである。ただし執筆者は福岡県内の学校関係者で、そのため、調査や分析も福岡県内の学校現場に基づいて行われたものなので、ある程度地域性を帯び、福岡県内という限られた範囲と視点での論述であることが指摘できる。また、執筆者は学力という定義を明確にしていなかったため、読者は学力のイメージに対する理解の相違が生じることが予想される。もちろん子どもの学力を伸ばすための特效薬はない。本書に盛り込まれた様々な処方箋（提言）の中から読者は自身の症状に照らし合わせ、適切に活用すべきであろう。